
汎発性円形脱毛症との鑑別を要した休止期脱毛症の一例

小谷 はるみ
(祐生会みどりヶ丘病院 皮膚科)

【はじめに】

女性の脱毛や薄毛はさまざまな原因で引き起こされる。そのため、女性の脱毛を診察する際には、できるだけその原因を究明することが、患者の治療・予後の観点から重要である。

【症例】

76歳女性。約2か月前から前頭部の脱毛に気が付いた。当院初診時、前頭部に薄毛があり、トリコスコピーにて黒点・黄色点はなく、pull test 陰性であった。採血にて貧血を認めず、甲状腺機能は正常、各種疾患特異的自己抗体は陰性であった。受診の1か月後には後頭部まで脱毛がすすんだ。汎発性円形脱毛症や休止期脱毛症などを疑い、後頭部皮膚から2か所生検を行った。病理組織像にて毛髪周囲の炎症細胞浸潤を認めず、退行期毛を認めた。以上の結果より、汎発性円形脱毛症は否定的と考えた。再度詳細に問診を行い、脱毛開始3か月前に過敏性腸炎に罹患したことが判明し、2~3か月で比較的急速に脱毛している経過から、急性休止期脱毛症と診断した。

【考察】

トリコスコピー・頭皮の生検・詳細な問診により、診断に至った休止期脱毛症の一例を経験した。